

## 1 アンケート調査の目的

アンケート調査の目的は、いじめを受けている児童・生徒や、いじめを目にした児童・生徒の声を一つでも多く拾い、いじめがどの程度起きているかを定期的に把握するとともに、緊急性のある事案に対し、迅速に対応することにあります。

また、アンケートを実施することで、児童・生徒に対して、学校として「いじめをなくそう」としている姿勢を表明する機会となります。

少なくとも学期に1回、定期的実施することにより、児童・生徒に対して定期的にメッセージを伝える機会となり、また、教職員がいじめ問題への意識を新たにすることがあります。

### <アンケートの作成にあたって>

#### 「いじめ」という言葉

「気になること・いやなことはありませんか」は、あえて「いじめ」という言葉は使っていません。文中に「いじめ」の文字を入れることにより、かえってアンケートに対して子どもたちが警戒心や抵抗感を強く持つ場合が考えられるからです。

「いじめ」を受けている児童・生徒は、「弱い自分を知られたくない」というプライドや「親に心配をかけたくない」という心理状況があり、いじめられている事実を隠したり、時として否定したりする場合があります。このことがいじめを見えにくくしている背景でもあります。

したがって、「いじめ」という言葉のもつイメージに左右されずに回答を求めるためには、アンケートで「いじめ」という言葉をあえて使用せず「いじわるをされたり、いやなことをされたり」等の表現を使う方法があります。

その一方で、学校の状況によっては「いじめ」という言葉をあえて使用し、定期的アンケートを行うことで、児童・生徒に「いじめは絶対に許されない行為であること」「学校がいじめをなくそうとしていること」、また、アンケートの項目にある行為が「いじめ」であることを、児童・生徒に認識させることを目的として実施する場合があります。

#### アンケートの項目

アンケートの項目については一つひとつは些細なことのように感じられることでも積み重ねることによって重大ないじめになるような項目や、犯罪行為となる可能性のある項目等、学校の状況に応じて項目を設定する必要があります。

### < 正確な状況把握に向けて >

その集団のいじめの状況や今後どの程度起こりそうかを知るために、より正確な回答が得られやすいという点では「無記名アンケート」が有効です。この場合、誰がいじめの被害者か加害者かを知ることが目的ではなく、現在いじめがどの程度起きているのか、これから起こりそうなのかを把握し、その結果に基づいて、起きているいじめに対応すると共に、いじめが起きにくくなるような取組みを意図的・計画的に行うこと、また、取組みの成果を評価し改善するためにも役立ちます。「無記名アンケート」の強みは、安心して意思表示できることにもあります。いじめがどの程度起きているのかが把握できたら、その数字を真摯に受け止め、いじめはどの子にも起こりうるものと捉えて、児童・生徒全員を対象にした対策を講じる必要があります。

【参考】生徒指導リーフ「いじめアンケート」平成 24 年 6 月

<http://www.nier.go.jp/shido/leaf/leaf04.pdf>

